

2023年度 入学試験問題

国語

(1科目 100点 50分)

2023年2月9日(木) 1時限目実施

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この注意事項は、よく読んでください。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 次のことには十分注意してください。
 - ① 解答用紙には、受験番号を記入することを忘れないこと。
 - ② 答えはすべて解答用紙に記入すること。
 - ③ 不正行為はしないこと。

解答については、間違いのないように十分注意し、記入してください。

東 奥 義 塾 高 等 学 校

- 一 放送をよく聞いて、問いに答えなさい。なお、左に掲げた表は本文の途中で述べる「左の表」です。
※メモを取ってもかまいません。

【左の表】

※著作権保護のため表
は掲載いたしません。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

文化相対主義という言葉がありますが、これは、いろいろな文化の間にどっちが良いという上下の差はない、どんなに奇妙に見えようとも、それはそれでその人間にとって重要な文化である、文化は相対的に存在しているのであって、絶対的にある方式が普遍的であったり、どちらかがどちらかの上になっていたり、というような存在のしかたはしていない、という考え方です。これに基づいて、日本文化だけがすぐれていると思つてはいけない、外国に行つたならば日本の企業のやり方だけが唯一だと思つてはいけない、その国におけるやり方を学んで、いいところは取り入れてやっていくべきである、そういったことはたくさん語られているようです。お互い違う文化は理解していい、文化はお互いに相対的なものだから、どちらが優であつてどちらが劣であるというような考えは捨てて、互いに違いを納得していい、というこのような立場をとるのは大切なことだと思います。

【A】他の文化を認めるといふ方が、その文化との重なり合いを否定した上でその差異を鮮明なものとして認め、同時に自分たちの文化の細かな差異は認めない、という考え方を含んでいます。また、私たちはほかの文化を認めることをしなければいけないと言いつつ、一方で、やはり自分たちの文化を自慢したいという気持ちをもっています。お互いの文化の間に優劣はないというものわがりのいい態度をするのは簡単ですが、しかし、そういうことで自分たちの文化を生きることが本当にできるでしょうか。自分たちの文化がたくさんある文化の一つであるということを確認しつつ、しかし自分たちの文化に対する誇りとか「自慢」する気持ちも同時に持たなくてはなりません。このことは文化相対主義に反するように思えるかもしれませんが、むしろこういう考え方や活動が文化相対主義を保証し、成り立たせるのです。

ある二つの文化、【B】日本の文化と外国の文化を、お互い違う文化であるが両方とも認めようとすることは、同時に、われわれの文化、日本文化を一つの文化として想定していることなのです。日本文化といったように一つの文化を想定すると、文化の内側の差異がなくなつてきてしまいます。またそう考えることは、内側の差異をなくすことです。これは、逆に外側との違いを大きくすることです。単に外の文化を違うものとして認めるということは、お互いに共存していく非常にものわがりのいい態度のようですが、実は内側の差異をなくすことによつてできてしまった外側との差異、自分たちでつくってしまった差異を認めることでしかないともいえます。逆にもし、私たちが内側でさまざまな文化の差異を認めていくと、むしろ外との重なり合いの部分が出てくるはずで、日本文化の中で、たとえば太平洋の文化と重なる部分や朝鮮半島の文化と重なる部分をなくしていけばいくほど、それらの文化との差異は大きくなりますが、逆にそれを保持していけ

ば、外との共通性は残ってきます。内部での差異をつくるということは、外との共通性をむしろ増すこととなります。文化相対主義の悪い形は、実は内部での差異を少なくして外部との差を際立たせて、つくりあげてしまった差異を認めようとするものです。文化というものをそういう形で切り取ったとしたら、①われわれはかなり無理なことをしていることになるのではないのでしょうか。ですから、もし文化相対主義というものがよく機能するとしたら、文化相対主義ともう一つ、②文化絶対主義という立場がありますが、お国自慢は文化の元気であるというように、それぞれの文化の内側にある差異のユニークさと自立性を認めるという立場があつて、その二つの立場が相まって初めて文化というものに活力とバランスが出てくるわけです。そのようにして重なり合いが生まれて、そこで他の文化を理解するという行為が出てくるのです。そういう二つがバランスを保っていれば、おそらく文化というのはなだらかに変化していくだろうと思います。全世界が一つの文化になるというようなことはなくて、さまざまな文化が常に生まれては影響され合つて、また別の文化に変わっていく。文化と文化の間の差異は衝突して対立を引き起こすのではなく、違う要素がそこで溶け合うか、まざり合いながら共存するか、または片方が片方を覆っていくか、さまざまな形で常に変化していくという姿をもつはずなのです。

そうすると、異文化の間の理解というのは、そのように常に文化と文化が相互に関係し合っている状態の中で、共通性を生みだしていく動きでもあり、違いを生みだそうという動きでもあつて、その二つは同時に進行しているといえます。その中では決してモノと情報移動するだけではなくて、常に違う文化が流れ込んでいるある人間と、他の人間との重なり合いが起きています。文化の理解とは、いわば③そのような重なり合いにおける違いの中を生きることです。現在の日本の状況において、異文化を理解する努力というのは、異なる文化をもつ人との重なり合いの部分を広げていくということになります。ただそれは、人と人とが重なり合つて触れ合つていくわけですから、なまやさしいことではありません。比喩的にいえば、お互いに傷つけ合つて、血が出るようなことが起きるような大変な問題でもあるでしょう。しかし、日本の中でも北から南までさまざまな文化の差異があつて、そのさまざまな違いがお雑煮のお国自慢にもなつてあらわれているわけです。この現在の状況をあまり肩肘を張らずに、すでに日本の文化の内部で私たちはさまざまな多くの差異をもっているということを思い返しながらか、他の私たちとは全く異なると思われるような文化も、これこれこうだと理解するのではなくて、④それを生きるといふ形で少しずつ重なり合つてやっていくことができるのではないかと思ひます。

問一 空欄【A】・【B】にあてはまる語句として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。
ア たとえば イ ところで ウ しかし エ なぜなら

問二 傍線部①「われわれはかなり無理なことをしていることになるのではないだろうか」とあるのはなぜですか。その理由を説明した次の文章の空欄にあてはまる最も適当な語句を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

それは、自らの文化のもつ歴史的・地域的な [] を切り捨て、無理に単一化しようとするようなことだから。
ア 普遍性 イ 多様性 ウ 共通性 エ 優越性

問三 傍線部②「文化絶対主義」とありますが、その定義が述べられている箇所を三十字以上三十五字以内で抜き出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問四 傍線部③「そのような重なり合い」と意味を同じくする表現を、これより以前の箇所から十五字以上二十字以内で抜き出しなさい。

問五 傍線部④「それを生きるという形で少しずつ重なり合ってやっていくこと」を説明した次の文章の空欄 I・II にあてはまる語句を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出しなさい。
異なる文化をもつ人と、その差異は差異として認めつつも、 [I (五字以上十字以内)] を広げながら [II (二字)] していくこと。

問六 本文の内容について述べたものとして最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自国の文化と他国の文化を共に受け入れるためには、自国の文化を誇りに思う気持ちを持つてはならない。
- イ 文化相対主義はお互いの違いを認める有用な考え方だが、自国の文化に誇りを持つことの方が大切である。
- ウ 文化絶対主義という考え方は、異文化を自国の文化とは違うものとして排除する寛容さを欠くものである。
- エ 自国の文化と同じく他国の文化を認めようとするれば、自国の文化の内側の様々な違いを認める必要がある。

問七 異文化への理解について、ある生徒がその要旨を次のようにまとめました。次の文章の空欄にあてはまる内容を二十五字以内で答えなさい。

異文化を理解することは、

ことによって可能になるものである。

〔三〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

ある日、「私（先生）」は、「長」や「かんぶり」と呼ばれる少年たちが魚をとる場面に出くわした。彼らにとった鮒ふなを売ってほしいと言った瞬間、「私」は何か大きな失敗をした気がしたが、それがどんな失敗かわからないまま、結局は買い取って味噌煮みそにした。それから三日後、少年たちが私の家を訪ねてきた。

中二日おいて、三日めの午ひるごろ、私は寝ているところを呼び起こされた。窓の雨戸を叩きながら、先生起きせえま、と少年たちが呼んでいるのである。私は起きあがって窓をあけた。外には五人の少年たちが、洗面器やバケツや空缶などを持って立って、私を見ると一列縦隊に並んだ。先頭にいるのは「※₁千本」の長で、かんぶりの顔も見え、みんな泥まみれのはだしであった。

「鮒とつてきただよ」と長が云った、「買ってくれせえな、先生」

私はかれらの期待に満ちた注目をあびて、自分に拒絶する勇氣のないことを悟り、かれらを勝手口へ廻まわらせた。そこでもかれらは一列に並び、ひとりひとりが私に向って自分の鮒に値を付けさせた。そのときになつて初めて、寝起きのぼんやりした私の頭が、かれらの※₂奸悪かんあくな計略を理解した。つまり、まとめて売れば安くなるが、一尾ずつなら安い値踏みはできない、という狙ねらいいなのだ。

「ほれ、みせえま」とかれらはそれぞれの鮒を私に誇示した、「こんなにえつけえだ、※₃五寸くれえあるだえ、先生」

そして「※₄しよっから」へゆけばこれ一尾で一※₅かんは取られる、と云つて互うたいに領うき、肯定しあうのであった。①私はそこでもまた自分わなが罠わなに落ち、縛りあげられたことを知った。私はかれらの誘導にしたがつて、値段を付け、それらを買取った。

「いいさ」と私はかれらの去ったあとで自分に云い聞かせた、「味噌煮みそにしておけば保もつからな、当分おかずに困らないで済むわけだ」

私はまえの味噌煮みそを井とんぶりへ移して、それらの鮒を新しく味噌煮みそにしかけた。

人は信用しないかもしれない。私自身もこれを書きながら、たぶん人は事実だとは信じないのだろうと思うのであるが、少年たちはその儲もうけ仕事があまりにたやすく、かつ確実であることに昂奮こうふんと情熱を感じたらしい。二三日するとまたやって来て、さもうれしそうにはしやぎながら、窓の戸を叩いた。

「並べつてばな」と長の云うのが聞えた、「おんだらが先だぞ、押すな」

拒絶されようなどは^{※9}寸毫も疑わず、確信そのもののような少年たちの顔を見て、それだけで私は自分の敗北を認めた。——ここまで読まれた方は、もはや小悪魔どもが私を放さないだろう、と想像されるにちがいない。私にしても、仮にふところをもっと【A】であったら、容易にかれらの手から逃れがたかつたろうと思う。②人は^{※7}黄白のの前には、しばしば恥を忍んで屈しなければならぬものだ。少年たちが四度めに襲撃をかけて来たとき、ふところの窮乏^{きゆうぼう}という現実^{じゆんじつ}に助けられて、私はきつぱりと鮒の買取りを拒絶した。するとそこに、③まったく予想しない事が起こって、私をおどろかせた。

私に拒絶されて、少年たちは明らかに失望し、途方にくれた。かれらは顔を見交わし、先生が駆引^{かけひき}しているのではないかと疑い、そうでないことを認めるともつと失望し、どうしたものかというふう^{ふう}に、それぞれの手にした器物の中の鮒を見まもつた。

「みんな」と長が急に云つた、「それじゃあこれ先生にくんか」

くんかとは、贈呈しようか、というほどの意味である。途方にくれ、落胆していた少年たちの顔に突然、生気がよみがえつた。それは囚^{とら}れの縄を解かれたような、妄執^{もうしやく}がおちたような、その他もろもろの^{※8}羈絆^{きはん}を脱したような、すがすがしく濁りのない顔に返つた。

「うん、くんべ」と少年の一人が云つた、「なせ、これ先生にくんべや」

「くんべ、くんべ」

「先生、これ先生にくんよ」とかんぶりが云つた、「みんな、勝手へいってあけんべや」

私は自分の大きな過誤を恥じた。

少年たちに^{※9}狡猾^{こうかく}と貪欲^{どんよく}な気持を起こさせたのは私の責任である。初めに私は「その鮒をくれ」と云えばよかつたのだ。売ってくれと云つたために、かれらは狡猾と貪欲にとりつかれた。私のさみしいふところを搾取^{さくしゆ}しながら、かれらも幸福ではなかつた。その期間、かれらは^{※10}貪婪^{どんらん}な漁夫でありわる賢い商人だつたからだ。私は深く自分を恥じた。

「先生にくんよ、か」と私は口まねをしてみた、「これ先生にくんよ」

そう云つたときの、すがすがしく、よみがえつたような顔つきや動作を思いうかべながら、④私は深く自分を恥じた。

- ※1 千本……「長」の自宅が営む釣舟屋。
- ※2 奸悪……心がねじけ曲がって邪悪なこと。
- ※3 五寸……約十五センチメートル。
- ※4 しよつから……つくだ煮屋の店の呼び名。
- ※5 かん……小銭を数える単位。
- ※6 寸毫……ほんの少し。
- ※7 黄白……お金のこと。
- ※8 羈絆を脱する……足手まといとなる物事から解放される。
- ※9 狡猾……ずるく悪賢いこと。
- ※9 貪婪……ひどく欲がふかいこと。

問一 空欄【A】にあてはまる語句として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ゆるやか
- イ にぎやか
- ウ ささやか
- エ あたたか

問二 傍線部①「私はそこでもまた自分が畏に落ち、縛りあげられたことを知った」の詳しい説明について、次のようにまとめました。

空欄 I・II にあてはまる内容をそれぞれ指定の字数で答えなさい。

「畏」とは、少年たちが「私」に鮎を高く売るためにとった策略のことであり、「縛りあげられた」とは、「私」がまんまとその策略にはまったということである。「そこでもまた」とあるように、少年たちの「畏」は二つあり、一つめは、全員でまとめて鮎を売るのでなく、I(十字以内) ことであり、二つめはその鮎がいかにも立派で大きく、II(十二字以内)とわざと言い合ったことである。

問三 傍線部②「人は黄白の前には、しばしば恥を忍んで屈しなければならぬ」とありますが、この場面では、誰が、どのようにしたことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「私」が、少年たちから三回にわたって鮎を買ったこと。

イ 「私」が、少年たちからの鮎の買い取りを拒絶したこと。

ウ 少年たちが、何度も鮎をとって「私」に売りに来たこと。

エ 少年たちが、鮎を買いとつてもらえず途方にくれたこと。

問四 傍線部③「まったく予想しないことが起こって」とありますが、どのようなことが起こりましたか。空欄に入る適切な語句を、本文中から十一字で抜き出ささい。

「長」が「私」に鮎を贈呈することを提案し、少年たちの表情が 物に変わったこと。

問五 傍線部④「私は深く自分を恥じた」とありますが、それはどうしてですか。次の空欄にあわせて、四十字以内で説明しなさい。

少年たちが から。

問六 この作品の表現や人物像についてグループ内で話し合いをしました。その発言内容が本文の説明として適当でないものを、次のア～オの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A―「鮎とってきただよ」や「買ってこれせえな」のように、少年たちの言葉が方言で書かれていて、飾り気のない様子とともに、どこかの地方を舞台にしていることがわかりやすく表現されているよ。

イ 生徒B―それに対して「私」の発言は標準語であり、周りの人から「先生」と呼ばれていることから、「私」は、舞台となった場所とは別の町からやってきた人であり、一定の尊敬を集める人物みたいだね。

ウ 生徒C―そうだね。都市部からやって来たと思われる「私」が、少年たちのことを「小悪魔ども」とか、「わる賢い商人」と呼んでいることから、田舎の彼らを教養のない存在として見ているのがわかるよ。

エ 生徒D―そうかなあ。この作品は、「私」が昔のことを回想する形式で書かれているけど、こんなにいきいきと方言が描かれているのは、その地域に対する「私」の愛着の強さを表しているんじゃないかな。

オ 生徒E―とりわけ、「かんぶり」の「先生にくんよ」という発言を口まねしたり、一人だけ名前の横に点がつけられたりしているのは、他の少年以上に「かんぶり」への強い感謝の念が現れているようだね。

〔問題は次のページにつづきます〕

④ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

むかし今をしらず。^{※1}伯耆の国大智大権現の御山は、恐ろしき神のすみで、夜はもとより、昼も^{※2}申の時過ぎては、寺僧だにくだるべき

寺の僧でさえ下山すべきものは

は下り、行ふべきはおこなひ明かすとなむ聞ゆ。麓の里に、夜毎わかきあぶれ者等集まり、酒のみ、博奕打ちて、争ひ遊ぶ宿あり。a けふ山を下り、泊まって修行するべき者は御堂にこもって夜を明かすという。

は雨降りて、野山のかせぎゆるされ、^{※3}午時よりあつまり来て、①跡無きかたり言してたのしがる中に、腕だてして、口こはき男あり。

野山の仕事から解放され、

腕をほこって、言葉の威勢のいい男がいた。

憎しとて、「おのれは強きといへど、②お山に夜のぼり、しるし置きて帰れ。さらずば、力ありとも心は臆したり」とて、あまたが中に恥か

たきめと言うなら、

しむ。「それは何事かは。こよひのぼりて、正しくしるしおきてb かへらむ」とて、酒のみ物くひみちて、小雨なれば、蓑笠かづきて、ただ

今出でゆく。③友達が中に、老いて心有るは、「無やくの争ひ也。④彼必ず神に引きさき捨てられん」と、眉ひそめていへど、追ひ止めむと

追ってやめさせる

もよひにせず。

わけでもない。

※1 伯耆の国……現在の島根県。

※2 申の時……午後三時～午後五時。

※3 午時……正午ころ。

問一 二重傍線部 a 「けふ」、b 「かへらむ」を現代かなづかいに書き改めなさい。

問二 傍線部①「跡無きかたり言してたのしがる」について、この動作の主語を本文中から八字で抜き出さなさい。

問三 傍線部②「お山に夜のぼり、しるし置きて帰れ。」とありますが、「お山」に「しるし」を置くと、どうなるのですか。次の文の空欄 I・II にあてはまる内容をそれぞれ指定の字数で答えなさい。

「お山」は I (八字) 場所なので、「しるし」を置いて帰ってくると、II (二字) を示すことができる。

問四 傍線部③「友達が中に、老いて心有るは、」の口語訳として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 友達の中でも、年長で分別のきく者が、

イ 友達の中でも、年長で親しみやすい者が、

ウ 友達の中でも、年長で心残りのある者が、

エ 友達の中でも、年長で下心のある者が、

問五 傍線部④「彼」とありますが、誰のことですか。本文中から五字で抜き出さなさい。

〔五〕 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑥の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ書き改めなさい。

- ① カンキユウを駆使して打者を打ち取る。 ② 世界情勢によりカワセの変動がはげしい。
③ 資格取得のために時間をツイやす。 ④ 紅葉の葉があざやかに見えている。
⑤ 人を思いやる慈悲の心を大切にしたい。 ⑥ 自発的な学習への取り組みを促す。

問二 次の①～③のことわざに当てはまる鳥を、次のア～カの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- ① 能ある□は爪を隠す。
② □も鳴かずに撃たれまい。
③ □に油揚げをさらわれる。
- ア 雀すずめ イ 鶴つる ウ 鷹たか エ 雉きじ オ 鳥からす カ 鳶とび

問三 次の①～④の傍線部の表現が、文法的に正しければ解答欄に○を記入し、誤っていれば×を記入しなさい。

- ① 来賓をおもてなしする役割は、ぜひ私にやらさせてください。
② 今日、家事都合でいつもより早めに帰らせてください。
③ 夕焼けの美しい景色は、空気の澄んだ日にだけ見られる。
④ 今日の夕食は、大好物のカレーだから何杯でも食べれる。

問四 次の原稿用紙の使い方や文章表現には、適切ではないところが三箇所あります。その三箇所が適切な使い方になるように書き改めなさい。ただし、一段落構成とします。

こ	こ	き	私
と	と	っ	は
は	だ	か	1
、	。	け	0
今	初	は	年
で	め	、	前
も	て	家	か
鮮	ピ	に	ら
明	ア	あ	ピ
に	ノ	っ	ア
覚	の	た	ノ
え	鍵	母	を
て	盤	の	習
い	に	ピ	い
ま	触	ア	始
す	っ	ノ	め
。	た	に	た
	と	触	。
	き	れ	そ
	の	た	の

〔問題はここで終わりです〕

国語解答用紙

※印の欄には何も記入しないこと

一 14点

2×2 問一
ア

イ

二 26点

2×2 問一
A

B

3 問二

3 問三

3 問四

3 問五

3 問六

三 24点

2 問一

4 問七

3×2 問五
I

II

3 問六

3 問四

四 17点

1×2 問一
a

b

3 問三

3 問四

3 問二
I

II

五 19点

1×6 問一

1×3 問二

②

③

1×4 問三

①

②

③

④

⑤

⑥

六 24点

2×2 問六

6 問五

3 問三

3 問四

3 問二
I

II

3 問四

3 問二

3 問五

七 26点

2×3 問四

1×3 問二

①

②

③

1×4 問三

①

②

③

④

受験番号

※

※
五問四

※
五問一～三

※
四

※
二問二五

※
二問一三四六

※
二問七

※
二問一五六

※
一